

令和 6 年 7 月～9 月期地域産業経営動向調査の結果をとりまとめました

堺市と堺商工会議所では、堺市内の景気動向を把握するため、令和 6 年 7 月～9 月期の地域産業経営動向調査を以下のとおり実施し、調査結果をとりまとめました。

1 調査対象 堺市内に所在する事業所 800 社（回答企業 407 社 回答率 50.9%）

2 調査期間 令和 6 年 9 月 13 日（金）～令和 6 年 9 月 27 日（金）

3 調査結果概要

今期（7 月～9 月期）の前年同期比を見ると、売上高 DI が改善、業況判断 DI がやや改善、資金繰り DI が横ばい、採算 DI、雇用人員 DI がやや悪化している。

来期（10 月～12 月期）の予測は、業況判断 DI が改善、売上高 DI、採算 DI、雇用人員 DI がやや改善、資金繰り DI がやや悪化となっている。

数値の推移としては、全体的に前回調査よりも改善した項目が増え、来期予測についても回復傾向にある。しかし、業種別の前年同期比の指標では業種間で格差が大きく、市内中小企業の景況は一樣に明るい見方ができるわけではないことから、引き続き市内企業の動向を注視する必要がある。

○業況判断	前年同期比の指標はやや改善（ $\Delta 17.2 \Rightarrow \Delta 15.5$ ） 来期見通しの指標は改善（ $\Delta 15.5 \Rightarrow \Delta 9.1$ ）
○売上高	前年同期比の指標は改善（ $\Delta 14.2 \Rightarrow \Delta 10.6$ ） 来期見通しの指標はやや改善（ $\Delta 10.6 \Rightarrow \Delta 8.6$ ）
○採算	前年同期比の指標はやや悪化（ $\Delta 13.0 \Rightarrow \Delta 15.0$ ） 来期見通しの指標はやや改善（ $\Delta 15.0 \Rightarrow \Delta 12.3$ ）
○資金繰り	前年同期比の指標は横ばい（ $3.2 \Rightarrow 3.2$ ） 来期見通しの指標はやや悪化（ $3.2 \Rightarrow 1.7$ ）
○雇用人員	前年同期比の指標はやや悪化（ $1.0 \Rightarrow \Delta 1.5$ ） 来期見通しの指標はやや改善（ $\Delta 1.5 \Rightarrow 1.0$ ）

問
い
合
わ
せ
先

担 当 課：産業振興局 産業戦略部 産業企画課
電 話：072-228-7414
ファックス：072-228-8816

令和6年7月～9月期 地域産業経営動向調査 〔報告書〕

堺 市

〔 調査実施機関

堺 商 工 会 議 所 〕

調査の概要

1. 調査目的 堺市管内事業所の経営動向の実態を四半期毎（3月期・6月期・9月期・12月期）に調査し、業況判断指数 DI 値等により景気動向を把握する。
2. 調査対象 堺商工会議所会員事業所 800 社（建設業 200 社・製造業 200 社・卸売業 100 社・小売業 100 社・サービス業 200 社）
3. 調査期間 令和 6 年 9 月 13 日（金）～令和 6 年 9 月 27 日（金）

4. 回収率	調査対象数	回収数	回収率
建設業	200 社	101 社	50.5%
製造業	200 社	105 社	52.5%
卸売業	100 社	51 社	51.0%
小売業	100 社	50 社	50.0%
サービス業	200 社	100 社	50.0%
全産業	800 社	407 社	50.9%

【主要な表現について】

- 業況判断 … 調査対象企業が自らの業績に下した判断。
- DI 値 … 「好転」したとする企業割合から「悪化」したとする企業割合を差し引いた値。

【各項目別の DI 値の意味について】

- 業況判断 … DI 値がプラスなら「好転」を、マイナスなら「悪化」を表す。
- 売上高 … DI 値がプラスなら「増加」を、マイナスなら「減少」を表す。
- 採算 … DI 値がプラスなら「好転」を、マイナスなら「悪化」を表す。
⇒ 今期状況 … DI 値がプラスなら「黒字基調」を、マイナスなら「赤字基調」を表す。
- 資金繰り … DI 値がプラスなら「容易」を、マイナスなら「困難」を表す。
- 雇用人員 … DI 値がプラスなら「増加」を、マイナスなら「減少」を表す。
⇒ 今期状況 … DI 値がプラスなら「不足」を、マイナスなら「過剰」を表す。

調査結果の概観

今期(7月～9月期)の前年同期比を見ると、売上高DIが改善、業況判断DIがやや改善、資金繰りDIが横ばい、採算DI、雇用人員DIがやや悪化している。

来期(10月～12月期)の予測については、業況判断DIが改善、売上高DI、採算DI、雇用人員DIがやや改善、資金繰りDIがやや悪化となっている。

数値の推移としては、全体的に前回調査よりも改善した項目が増え、来期予測についても回復傾向にある。しかし、業種別の前年同期比の指標では業種間で格差が大きく、市内中小企業の景況は一樣に明るい見方ができるわけではないことから、引き続き市内企業の動向については注視していく必要がある。

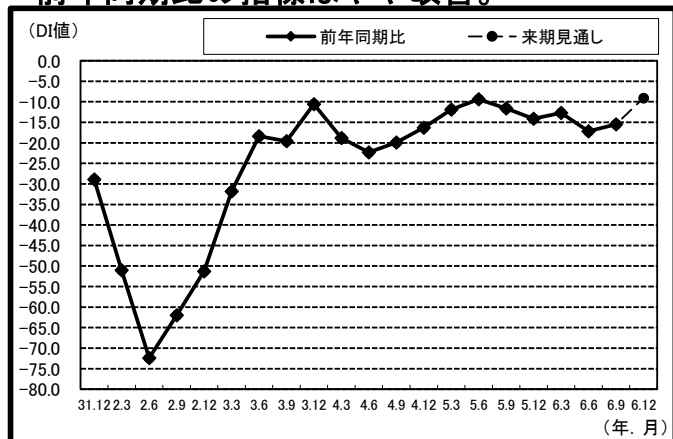
1. 業況判断の動向

・前年同期比の指標はやや改善
($\Delta 17.2 \Rightarrow \Delta 15.5$)

・来期見通しの指標は改善と予測
($\Delta 15.5 \Rightarrow \Delta 9.1$)

・業種別に前年同期比の指標を見ると、製造業は2期連続で改善、卸売業は改善、建設業はやや改善、小売業は横ばい、サービス業は悪化。

・前年同期比の指標はやや改善。



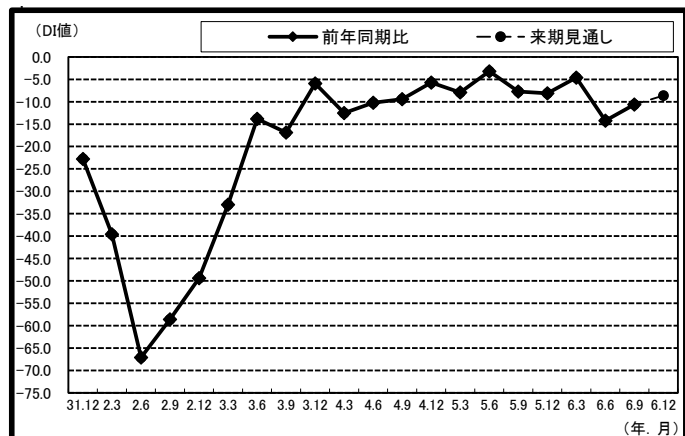
2. 売上高の動向

・前年同期比の指標は改善
($\Delta 14.2 \Rightarrow \Delta 10.6$)

・来期見通しの指標はやや改善と予測
($\Delta 10.6 \Rightarrow \Delta 8.6$)

・業種別に前年同期比の指標を見ると、卸売業、小売業が改善、建設業、サービス業はやや改善、製造業は横ばい。

・前年同期比の指標は改善。



3. 採算の動向

・前年同期比の指標はやや悪化
($\Delta 13.0 \Rightarrow \Delta 15.0$)

・来期見通しの指標はやや改善と予測
($\Delta 15.0 \Rightarrow \Delta 12.3$)

・業種別に前年同期比の指標を見ると、卸売業は改善、建設業、製造業は横ばい、小売業、サービス業は2期連続で悪化。

・前年同期比の指標はやや悪化。



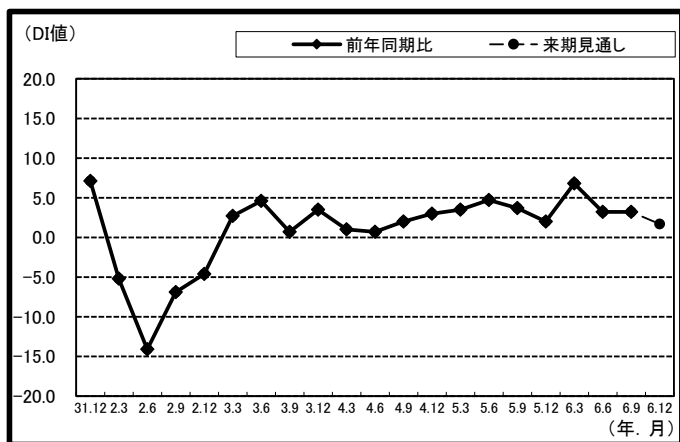
4. 資金繰りの動向

・前年同期比の指標は横ばい
($3.2 \Rightarrow 3.2$)

・来期見通しの指標はやや悪化と予測
($3.2 \Rightarrow 1.7$)

・業種別に前年同期比の指標を見ると、製造業は改善、卸売業はやや改善、建設業、サービス業はやや悪化、小売業は悪化。

・前年同期比の指標は横ばい。



5. 雇用人員の動向

・前年同期比の指標はやや悪化
($1.0 \Rightarrow \Delta 1.5$)

・来期見通しの指標はやや改善と予測
($\Delta 1.5 \Rightarrow 1.0$)

・業種別に前年同期比の指標を見ると、卸売業は2期連続で改善、小売業は改善、製造業、サービス業はやや悪化、建設業は悪化。

・前年同期比の指標はやや悪化。

